

●「EJAAD(エジャード)」アフガニスタン女性支援プログラム

(担当 筒井、ジェニファー)

「EJAAD (エジャード)」は、2016～2018年にサパナでアフガン料理を作ってくれていた元大阪大学留学生アブドゥルさんが中心となり、TIFAメンバーを含む有志で立ち上げた活動です。女性の教育や就労支援を目的とし、現在首都カブールにて、コロナ禍&タリバン禍の中、外出もままならない26人の女性達が家で刺繍作品を作っています。教育をほとんど受けていない女性も多いため、今年から自主的に識字教室も始めました。春にはEJAADのクラウドファンディングを基金として拠点施設が完成します。皆で集まって勉強や縫製作業ができる日が来ることを心の支えに、食料不足の中、マイナス15度にもなる厳しい冬を耐えています。「コロナが広がっているかもしれないけど、もっと大変なことがあるからコロナのことなんか忘れてる」という話を聞くと、より早急な支援が急がれます。

現在EJAADでは、南部のロガール県にて食料配布や医療などの緊急支援も行っています。

EJAADは2021年よりTIFAの国際協力活動の一つとなりました。大学やTIFAサロンでの活動紹介の時にはオンラインでアブドゥルさんが現地から参加し、いろいろな質問に答えて理解が深まる良い機会となりました。今後もマーケットやイベントで積極的に活動紹介をしながら刺繍作品の展示販売も予定していますのでぜひご参加ください。<https://ejaad.jimdofree.com/>



EJAADからの支援物資を受け取る子どもたち

入会・寄付のご案内 Welcome! よろしくお願いたします!

■正会員…入会金 2,000円 年会費 6,000円(月 500円)  
TIFAで実際に活動を行う会員です。新しい活動をした方も歓迎します。

■賛助会員…年会費 一口 3,000円(個人) 1万円(団体)  
TIFAの活動を資金面で支援していただく会員です。  
ニュースレター等で報告をお送りします。

■一般寄付・団体寄付(金額は自由)  
特定の活動へのご寄付も歓迎いたします。

【振込先】郵便振替口座番号 00940-3-309179  
加入者名: 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか  
入会方法など、くわしくは事務局にお問合せください。

世界の女性と子ども支援基金

長引くコロナ禍で生活が困窮しているネパールとアフガニスタンの女性や子どもたちへの緊急支援に使わせていただきます。(食料配給、教育支援など)

支援金: 一口 5000円より

またはご自由な金額にて。

【振込先】郵便振替口座番号 00910-8-308062  
加入者名: TIFA 世界の女性と子ども支援基金

発行: 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)

TIFA(国際交流の会とよなか)は、豊中市にて1985年11月に発足しました。メンバーと地域に住む外国人が協力し、言葉や文化、国籍が異なる人たちがともに生きやすい社会の実現を目指して活動しています。

事務局 〒560-0021 大阪府豊中市本町3-3-2-101

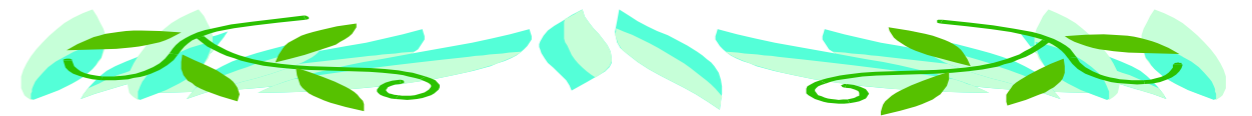
Tel/Fax: 06-6840-1014

E-mail: tifa99@nifty.ne.jp

お問合せ・お申込みは 月～金曜 10:00～17:00

ホームページ: <http://tifa-toyonaka.org/>

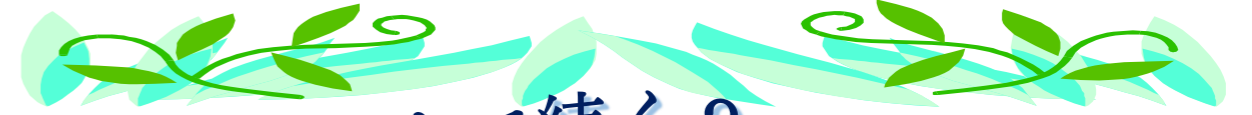
ホームページ



Toyonaka International Friendship Association

TIFA ニュースレター vol.40

特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか 2022年3月発行



いつまで続く? コロナ禍  
こんな時こそ TIFA の活動は力強く!

新型コロナウイルス・パンデミックが世界を覆い尽くして、もう3年目となりました。その間、経済格差、政情不安、自然災害など深刻な問題が多発し、暮らしが成り立たなくなった多くの人々が世界に溢れています。大切な緑の地球に住む私たちはみんな繋がっていて、他人事では済まされないと心痛みます。コロナ禍のために活動はいろいろ制限はあっても、こんな時こそ一層、TIFAの活動は力強くありたいと思っています。コロナ禍で大きな影響を受けながらも、地域で暮らす多くの外国人の人たちと力を合わせて、苦難を乗り越えようと努力する人々にエールを送り、様々なことを学びながら、今できる限りの活動を続けています。今号は、コロナ禍での外国人のための4つのプログラムにスポットを当てました。



HAND IN HAND の集い

ネパール・ブンガマティ村のメンバー



EJAAD アフガニスタン伝統の刺繍



医療通訳システム構築に向けての講演会



★引っ越して良かった!

理事長 葛西美紗

新しいサパナ(1F)と新事務所(2F)は、本当に明るくて気持ち良く、引っ越して良かったという実感がしみじみ湧いています。サパナは料理のレベルが上がったからなのでしょうか、感染対策もしっかりして、お客様も順調で評判も良くなっています。2階は、TIFAサロンへ参加の方々が来てくださり、交流の場になっています。空いているときは外部の方にもお貸ししていますので、事務所にご連絡ください。ネパールからのキルトやニットの新製品、アフガニスタンからの刺繍製品なども見ていただけますので、ぜひお立ちよりください。

●「HAND IN HAND」プログラム (担当 葛西、石墨)

地域に暮らす留学生、研修生などやその家族の人たちを対象に、日常生活や学校のことなど、ランチを食べながら気楽に話し合う会を、毎月1回、日曜日の午後開催。日本語の勉強や在留ビザ、仕事のことなどの相談にも対応しています。



<参加者の声>

\*母国から遠く離れ、海外で一人暮らしをする留学生としては、このコロナ禍の2年間は大変でした。でも、「本当によかった」と思うことの一つは、「HAND in HAND」で日本と他の外国の方々と交流し、さまざまな国の料理を食べながら楽しく会話することです。いろいろな国からの留学生、また働いている人たちの話や経験などを聞くのがいつも楽しみです。不要不急の外出を控え、オンラインで授業を受けたり仕事したりしたこの2年間では、一緒に料理を楽しめ、気楽に会話できるこのような交流活動は、意義深くとても貴重だと思います。私は去年の9月に大学を卒業し、今年4月から大学院に行く予定です。その6ヶ月の間、コロナで帰国できず、日本滞在の延長の手続きをどうすればいいかと困ったとき、「Hand in Hand」で、行政書士の吉岡さんに在留資格などを相談することができてとても安心しました。私以外にもコロナで毎日の生活が厳しくなった外国の方もいました。その時、スタッフの皆さんは、仕事やビザの相談を受けたり、困ったことに耳を傾けたりしてくれました。とても感謝しています。これからも続けてほしいです。

(ナムさん 留学生 ベトナム)

\*ここでは、国際交流はもちろん日本語の勉強や悩み事など色々な相談にも乗ってくれます。また毎月いろんな国のランチも美味しいです。



特に一月の日本のお正月ランチの時に、人生で初めてお雑煮を食べました。とても美味しかったです。コロナ禍で帰国できず家族にも会えない時に、みなさんと一緒にいてとても嬉しかったです。お正月の落語も本番で見ることができ、笑えるし、心の壁が取り払われます。

(ジュニさん 看護師 インドネシア)

●「付き添いサポートプラス」プログラム

(担当 神野、野路、ススマ)

～医療通訳システム構築に向けて～

TIFAではこれまでも、医療機関への付き添いサポートや通訳など、必要に応じ個別対応を行ってきました。しかし、内容の多様さや重大さを考えると、人間関係の延長や個人の好意だけではカバーしきれない部分があると感じてきました。ニーズの把握や人材ネットワークの構築で、地域に住む外国人が安心して受診できるシステムづくりが目標です。

今回の事業の柱は、

- 1.これまでの取り組みの延長として医療機関への同行、通訳を行い、今後の発展に向けてフィードバックを得ること。
- 2.システム構築に向けての勉強会。1月初旬にメンバーが医療通訳で成果を上げておられる神戸のFACILを見学。2月23日には医療通訳システム構築事業についての講演会を実施。
- 3.通訳者研修。3月2日、医療通訳の心構えについての研修会を実施予定。広く参加者を募り、スキルアップだけでなく、ネットワークづくりの足掛かりにしたいと考えています。(コロナ禍の折、規模縮小の可能性あります。)

目標は大きいですが、まずは、できることから。小さなはじめての一步です。

講演会講師の李さんと山口さん (FACIL)

<利用者の声>

腰が痛くて病院に行っていましたが、なかなかよくなり、困っていました。今回、通訳の人が、どこがどのように痛いをお医者さんに説明してくれたおかげで、痛みの原因がわかり、治療ができました。感謝しています。

(付き添いサポーターの声) 目の前で転んでいる人がいたら、素通りできない、

そんな気持ちでサポートを始めました。しっかりしたシステムに発展すればうれしいです。

(通訳者の声) 医療通訳は、命に係わるかもしれないので、きちんと伝えたいんです。



●「ネパール・ブンガマティ」プログラム (担当 海野バティ、手島)

カトマンズ郊外パターン地区のブンガマティ村が、2015年の大地震で甚大な被害を受けて1年後、ネパール出身のバティたちTIFA会員が、復興が進まず困窮していた現地を訪問して、「何がしたい?」という女性たちへの問いかけから、このプロジェクトが企画されました。すでに現地には手編み製品の生産工場が幾つかあって、僅かな工賃で働いていた女性たちに、現在、現地リーダーとなっているパンチャさんが声を掛けてメンバーを募り、フェア・トレードで製品をTIFAに送ることからスタートしました。それから7年間、ビーズやニット製品や衣類などが定期的にTIFAに届けられています。2019年春から、現地NGO「チョータリ(大きな樹の下での集いの意)」として独立した活動をスタートし、現在20名のメンバーがいます。



ニット製品の帽子

村は地震復興も進まない上にコロナ禍が襲い、家計の中心を担う男性たちが失職し困窮する家庭が多く、女性たちの手仕事収入は大きな支えになっています。



支援物資を届けるチョータリ・リーダーパンチャさん

男性が一日約1000円女性がその半分の日雇い仕事で、コロナ禍で求人が激減し、外出も制限される現在、この手仕事は女性達にとって、身体的にも精神的にも良く、苦しい中でも子ども達の教育費にも使えることが励みになっています。食料支援や子ども達の学校給食への支援の継続実施と同時に、製品販売の純利益は貯蓄し、地域の貯水タンクの修理代(すでに実施)や、地域の福利厚生、女性の自立、子どもの教育に貢献したいという熱い思いで活動しています。

引き続きの応援をよろしくお願いします!